

## 異文化理解－中国編

科目責任者 小鳥遊 信子  
学年・学期 1 学年・1 学期

## I. 前 文

本科目では、多文化共生社会を構築するための異文化を理解する態度について、中国文化に焦点を当てて学ぶ。多文化共生とは、在住外国人を日本社会の構成員としてとらえ、多様な背景を持つ人々が、それぞれの文化的アイデンティティを発揮できる条件を整えることにより、社会の豊かさを増大させようとする試みである。

日本社会に多文化共生が求められる背景には、おもに経済的側面から、グローバル化（地球規模の人口流動、企業の海外進出）や日本社会の縮退（経済規模や労働人口の維持）が挙げられる。

多文化共生は経済的な豊かさやバリエーションに富んだ文化の享受が可能になる一方、文化的摩擦や判断基準の混乱をも生む諸刃の剣である。我々がより複雑さを増す多文化共生社会に身を置くためには、異文化を理解する態度の形成と、多文化共生のための方法論を学ぶ必要がある。

## II. 担当教員

非常勤講師 小鳥遊 信子

## III. 一般学習目標

・ 自国及び他国の文化に対する理解を深め、文化の多様性に対する寛容な態度や、広い視野で物事を考える力を身につける。

## IV. 学修の到達目標

- 1) 多文化共生社会を構築するための態度を形成する。
- 2) 中国文化を理解し、中国に対する視点を養成する。
- 3) 日本人間の多文化に対しても自覚的になり、よりよいコミュニケーションを図れるようにする。

## V. 授業計画及び方法 \* ( ) 内はアクティブラーニングの番号と種類

- (1: 反転授業の要素を含む授業 (知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態。)  
2: ディスカッション, デイバート 3: グループワーク 4: 実習, フィールドワーク 5: プレゼンテーション  
6: その他 空欄: 該当なし)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担当者	アクティブ ラーニング
1	5	13	水	5	概説	小鳥遊 信子	2・3
2		20	水	5	異文化理解の障壁①	小鳥遊 信子	2・3
3		27	水	5	異文化理解の障壁②	小鳥遊 信子	2・3
4	6	3	水	5	中国文化の理解①	小鳥遊 信子	2・3
5		10	水	5	中国文化の理解②	小鳥遊 信子	2・3
6		17	水	5	中国文化の理解③	小鳥遊 信子	2・3
7		17	水	6	多文化共生スキル 日本人の間における多文化	小鳥遊 信子	2・3・5

VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）

期末レポート50%，各回ふりかえりシート30%，出席状況や学習意欲など20%により総合的に評価する。

VII. 教科書・参考図書・AV資料

- 1) はじめて学ぶ異文化コミュニケーション 有斐閣選書
- 2) アサーショントレーニングーさわやかに自己表現>のために 金子書房
- 3) 授業の内容に応じ，プリントを配布する。

VIII. 質問への対応方法

講義中，もしくは講義終了時，メールで随時受け付ける。

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

\*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	
<b>医師としてのプロフェッショナリズム</b> 幅広い教養，利他の精神，医師に求められる品格を身につけ，豊かな人間性を育み，他の医療者と協調して，多様な価値観を尊重する全人的な医療を実践できる	○
<b>能動的学修能力</b> 医学知識・技能を主体的に学び，情報・科学技術を活用して，生涯にわたって自ら問題を発見し，解決することができる	○
<b>地域医療の理解</b> 地域社会における医療の役割と，その中核を担う意味を理解できる	
<b>国際性</b> 国際社会における医学・医療の動向や課題を理解し，課題解決に向けて行動することができる	○
<b>リサーチマインド</b> 研究活動における積極的な創造・発信に挑み，医学・医療の進歩に貢献することができる	

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

各回の振り返りシート・課題は授業内でフィードバックする。

XI. 求められる事前学習，事後学習およびそれに必要な時間

事前学習：シラバス別冊に記載

事後学習：シラバス別冊に記載

XII. コアカリ記号・番号

シラバス別冊に記載